

# ステージラボ鶴岡セッション 募集要領

ステージラボは、地域の文化・芸術に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムです。少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップなど双方向の研修で、地域における創造的な表現活動の環境づくりに取り組む人材の育成と、相互交流の促進を目指して実施します。

## ■ 開催概要

日 程：2026年7月7日（火）～7月10日（金）[4日間]

会 場：荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）（山形県鶴岡市馬場町 11-61）

開講コース：①ホール入門コース、②自主事業コース

定 員：各コース 20名程度

参 加 費：研修参加は無料 ※交通、宿泊、滞在中の食事はご自身で手配、費用負担いただきます。

開 催 体 制：主催／（一財）地域創造 共催／タクトつるおか共同企業体、鶴岡市教育委員会  
後援／鶴岡市、山形県

## ①ホール入門コース

コーディネーター：セレノグラフィカ（隅地菜歩（振付家、ダンサー）、阿比留修一（ダンサー））

現在の皆さんの新鮮な目で、人と人が出会う現場を体験してみましょう。ワークショップに参加したら、参加する前の自分と何が変わるのでしょうか。また、皆さんの新鮮な耳で、劇場に関わる先輩たちの興味深い経験談を聞いてみましょう。どんな話なら迷ったり悩んだりした時に思い出せるのでしょうか。今回の4日間のプログラムから、ぜひ劇場で働くことの魅力、できれば醍醐味を見つけてください。ご自分のその身体と感覚で。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において業務経験年数1年半未満（開館準備のための組織は年数不問）の方。

## ②自主事業コース

コーディネーター：田澤拓朗（サントミュージゼ（上田市交流文化芸術センター） 事業担当係長）

みなさんのホールが抱える課題にも向き合いながら、集客や採算といった短期的な数値だけに一喜一憂するのではなく、地域のホールとして独自の存在意義を持ち続けていくためにはどうしたら良いか、他館の事例や評価手法について触れながらその方策を考えます。また、ワークショップ体験やアーティストとの対話などを通して、自分自身の内面に起こる変化を感じる機会になればと思います。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

## ■ 申込方法 申込締切 2026年4月24日（金）必着

当財団ウェブサイト内「ステージラボ」ページ（<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html> ▶）から、①参加申込書、②アンケート をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、専用フォームよりお申込みください。



※民間事業者の場合は③副申書が別途必要です。お申込み後、押印文書を下記担当までご郵送ください。

フォーム送信後すぐに、受付確認メール（自動返信）をお送りいたします。メールが届かない場合は、お申込みが完了していない可能性がございますので、お手数ですが、お電話でお問い合わせください。

【参加者の決定】アンケート内容、応募状況などを考慮のうえ（アンケート重視）、参加コースと参加の可否の調整を行い、2026年5月中旬をめぐりに、申込者あて文書によりご連絡いたします。

【お問合せ】（一財）地域創造 芸術環境部 研修担当 TEL：03-5573-4183 E-mail：kensyu@jafra.or.jp

## ■コーディネーターからのメッセージ・プロフィール

### ①ホール入門コース

コーディネーター：セレノグラフィカ（隅地茉歩（振付家、ダンサー）、阿比留修一（ダンサー））

代表の隅地茉歩（同志社大学大学院文学研究科修了）と阿比留修一（近畿大学文芸学部芸術学科演劇芸能専攻卒業）によって1997年に結成。デュエット作品の創作を基軸に方法論の確立と解体を続行し、隅地のTOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD2005「次代を担う振付家賞」（グランプリ）受賞後は、国内外に作品発表の場を広げる。2007年、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストとなったことをきっかけとして、全国各地でのアウトリーチ活動や市民参加作品創作にも多数取り組み、各地の劇場やNPO等と協働。実演以外にも、大学での講義や冊子の刊行など、広範に身体表現芸術の普及に務めている。



初めまして。私たちはダンスアーティストとしてさまざまな劇場に出向いて、ステージで作品を踊ったり創ったり、ホール内でワークショップをしたり、ホールの皆さんと一緒に学校や施設を訪問してダンスを届けたりしています。そこでの多世代の方たちとの出会いは、全て劇場の皆さんがつないでくださって実現するものです。そして、その出会いのエネルギーが私たちの燃料であると言っても過言ではありません。今回皆さんと私たちが出会うのも、劇場。できれば出会いのエネルギーを分かち合ってお互いの発見を交換したいものですね。劇場や公立文化施設の勤務と言ってもさまざまな業務があると思いますが、まだフレッシュな皆さんに、ここ一年なり一年半なりの経験の中で一番記憶に残っていることをお聞きしようとも思っています。同じことに驚いたり納得したりしている仲間が見つかるかもしれません。複数のワークショップを体験したり、広い意味で先輩にあたる人たちの話「仕事を始めた頃の私と今」に耳を傾けたりもしますが、実は皆さんが劇場という場の不思議な魅力に開眼してくださることがねらいです。鶴岡でお会いできるのを心から楽しみにしています。

### ②自主事業コース

コーディネーター：田澤拓朗（サントミュージゼ（上田市交流文化芸術センター） 事業担当係長）

1979年青森県青森市生まれ。中央大学法学部卒業後、2002年～2014年一般財団法人青森市文化スポーツ振興公社に勤務。施設管理、総務、事業の各業務に携わり、一般財団法人地域創造の「公共ホール音楽活性化事業」への参加をきっかけに、アウトリーチ事業「おでかけクラシック」シリーズをスタートさせる。また、2007年～2014年には「公共ホール音楽活性化事業」のコーディネーター等を務める。

2014年上田市役所に入庁。交流・文化施設の開館準備業務に携わった後、開館以降はサントミュージゼ（上田市交流文化芸術センター）において、主に音楽事業の企画・制作を担当。現在、事業担当係長として事業全体の統括業務を担っている。



みなさん、こんにちは。日々のお仕事を楽しんでますか？この仕事に望んで就いた方とそうではない方。望んで就いてはみたけれど、思い描いていた世界との違いに戸惑っている方。さまざまな思いで向き合っていることと思います。私は公共ホールの仕事に就いて気付けば24年経ちますが、思いがけず文化施設に配属されたところからのスタートでした。ではなぜ今もここにいるのか。それは人や地域との関わりの中で、楽しみや喜びを感じる体験があったからだと思います。サントミュージゼは立ち上げから約10年が経過し、いまやっと地域の小さな変化を感じ始めています。大きなことを打ち出すというよりは、まるで薄紙を1枚1枚丁寧に重ねていくような、そんな10年でした。理想と現実の狭間で思い悩むこともあるかもしれませんが、大切なのは人（あなた）です。ホールには地域やアーティストから信頼される人の存在が不可欠です。10年後の未来にどんなホールでありたいのか、その時自分はどう存在していきたいのか。集まったみなさんと共に考え、未来につながる糸口が見つかるのが嬉しいです。